

平成27年度岐阜県人権懇話会

会議要旨

1. 日 時：平成27年7月7日（火） 10:00～12:00

2. 場 所：岐阜県庁 議会東棟2階 第二面会室

3 説明内容

(1) 人権施策に係る平成26年度事業実施結果及び平成27年度の事業計画等について

- ・平成26年度人権施策の総合的かつ効果的な推進方針(重点取組課題への対応、実施結果)
- ・岐阜県の人権施策の取組状況について
- ・平成27年度人権施策の総合的かつ効果的な推進方針

4 意見交換

- (1) 最近の人権を取り巻く状況について
- (2) 効果的な人権啓発の手法について
- (3) その他

【内容】

(委員)

- ・人権教育・啓発の取り組みの手ごたえはいかがか。

(事務局)

- ・イベント会場等でのアンケート結果を見ると、人権のイベントに初めて参加するという方も多く、「良かった」「これからも続けてほしい」というご意見を多くいただいている。一昨年の人権懇話会における「露出と継続を高めよ」というご意見を踏まえて、人権啓発展県内巡回展などの取り組みを行ってきたが、こうした参加者のご意見を聞いて、やり続けなくてはならないと実感している。

(委員)

- ・「ある精肉店のはなし（七代にわたって屠畜・精肉店を営んできた家族を追ったドキュメンタリー）」という映画が各地で上映されており、子どもたちにどの程度見

せるべきか判断は必要だが、この映画を使って人権やいのちについて考える取り組みをしてはどうかと思う。

- 今の子どもたちは、自分たちがいただいている生き物が、どのようにトレイに乗るのかというプロセスを知らない。私たちの暮らしが「いのち」からどんどん離れてしまっており、学校教育の中で「いのち」とどう向き合うのか、ということが問題である。
- 「外国人だからいじめにあう」と言う人がいるが、それは違うのではないか。岐阜市にも多くの外国人が暮らしており、そのような発言をされるのは、当事者の気持ちになっていないからである。
- 確かに学校の中でも同じ国から来ている子どもたち同士のいじめもある。外国人だからいじめられると簡単には言えないが、外国人として阻害されている環境はあるのではないか。
- 黒人を見たときなど、子どもが日常見慣れていないものに出会ったときに、好奇心を示すのは当たり前のことである。ただ問題は、偏見につながることに周りの大人がきちっと対応することが大事である。
- Tシャツの色の表示にスペイン語で“negro”と書かれていることに、イギリスで大問題になったことがあるが、スペイン語では“negro”は“黒”という意味である。こうしたことが世の中にあるということを知らないと、子どもたちや周りの人にきちんと説明できず、人権侵害を防ぐことができない。
- いま日中関係はあまり良くないが、いくつかの民族が対立しながらできた中国と島国として育った日本とでは生活、歴史、文化的につながりがあるものの、それぞれの生活環境や政治環境が異なるので、まずは、お互いを理解し合うことで交流が始まると思う。地球はひとつであるという意識を子どもたち、孫たちに教えることから始めなければならない。
- 家庭の中で、ものに対する見方や考え方を生活体験の中からどう親がサポートしていくのが大事である。子どもたちは世界を見る目も命に対する重みも日常生活の中で感じるができないので、これからの日本を背負って立つべき子どもたちに問題意識や人を思いやる心をしっかり引き継いでいかなければいけない。
- 岐阜市内で性同一性障がいの小学6年生の男子児童が女子生徒として中学校に入学し、当事者、保護者、先生が話し合っ、様々な課題を一つ一つクリアしながら中学校生活を送っている。しかし、他にもまだ思うように生きられずに悶々としている子どもや、登校できない子どもたちがいっぱいいる。性的少数者の問題も外国人の問題も多様性を受け入れる考え方を広げていかなければいけない。性の多様性を是非とも学校で教育として取り上げてほしい。
- 文化、社会、経済、政治といった様々な分野において、いつの間にか常識として刷り込まれたことが、「正しい」ということになり、それに対して異を唱える人がいたらその人の方がおかしいとなってしまう。そういうことに気づくことがで

きるような環境を作っていくのが大事で、その一つが教育であろうと思う。

- ・外国人が偏見の目で見られるのは事実である。しかし、これからの時代、外国人と接する機会が増えてお互いの人間性がわかり合えれば、差別は消えていくと思う。しかし、そのための啓発は必要である。
- ・教育・啓発の一つの役割として、「それはしてはいけない」ということを、どんなに効果がないように見えても、言い続けることが大きな役割だと思う。ただし、その効果を検証することが大事である。
- ・先日、ある自治会の「青少年育成の会」に講師として行ったが、日曜日の夜にもかかわらず、180人も人が集まった。岐阜県ではまだ地域力が残っており、地域ごとに点々と活動しているが、それを何とかネットワークとしてつないで、岐阜県における人権状況の現状とか課題などを交流し合って、意見交換して、共有し合ってやっていけるとよい。
- ・人権に関する会議は、当懇話会の他にも教育委員会の人権教育協議会や生徒指導推進協議会もあるが、どの会も人権尊重やいじめ撲滅など、行き着くところは共通のものがあるので、互いに連携してやっていかなければならない。
- ・先般、教育委員会のいじめ撲滅に関する会議に各種団体のトップも出席していたが、子ども会の代表やスポーツ少年団の指導者にも、いじめ撲滅をしっかり広めてもらわなければならないし、そうすることで初めて県民運動にもなるのではないか。
- ・子育て、孫育てをするうえで肝心なのは、周りにまっとうな生き方をする大人がいてやることである。学歴とか関係なしに人間として凛として生きている大人が近くにいてやるのがよい。そういうモデルを身近に見て子どもは育つ。
- ・子どもはいじわるしたり、いじめをしたり、喧嘩をしたり、仲直りしたり、謝ったりして学んでいく。叩かれたら痛い、いじめられたら悲しい、悪口言われたらつらい、いろいろな感情を自分の中にかみしめながら、人間は成長していくものである。
- ・偏見や差別は完全にはなくならないが、減らすことはできるはず。大事なのは、自分自身を問うことであり、自分自身の中にある人間観と向き合うことが大切である。

(事務局)

- ・今、お話しいただいたように、「常識として刷りこまれたものが固定観念となり、さらにそれが偏見になる」ということを私たちは啓発をするにあたって、どう取り組むべきなのかが課題であると感じました。
- ・私たち啓発に取り組む者にとって大変貴重なご意見をいただきました。今後とも皆様のご意見をできる限り反映できるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願い致します。

(以上)